



1_自衛隊の隊員からロープの結び方を学ぶ 2_救助活動時の写真を見る先生と生徒 3_黙とうを行った遠野町第3区自治会の会員 4_講演した菅野拓准教授 5_5者による協定締結式が行われた



100歳のお祝いを受けた菊池さん



多くのカメラマンや観客でにぎわいをみせたためがね橋前広場

東日本大震災から12年

NEWS

それぞれが思いを巡らせる

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災から12年。市内各地で震災を考える活動が行われ、思いを巡らせた。

遠野緑峰高は10日、いのちの教育講演会を開催。自衛隊岩手地方協力本部北上地域事務所の職員を講師に、1・2年生が「震災当時の救助活動の様子」「災害への備え」「身近な物でできる応急救護」などを学びました(写真1・2)。

11日には遠野町第3区自治会が追悼集会を開き、サイレンに合わせ黙とうしました。地域住民や沿岸部出身者など50人が参加。鎮魂の祈りをささげました(写真3)。

市は19日、遠野市防災フォーラムを遠野市民センターで開催。市民ら170人が参加し、今後の防災について考えました。大阪公立大学大学院の菅野拓准教授が「記憶、そして絆を未来につなげるということ」と題し講演(写真4)。「大切なことは、平時から住民同士の顔が見える関係を作り、一緒に取り組む人を地域で育てること」と強調し、日頃の備えを呼びかけました。同日は「遠野市協働での災害時支援および復旧・復興推進に向けた包括協定締結式」が行われ、市・遠野市社会福祉協議会・遠野山・里・暮らしネットワーク・遠野まごころネット・遠野青年会議所——の5者が締結。災害時の情報共有や支援活動などを連携して取り組むこととしました(写真5)。

自宅で長寿をお祝い(3月21日生まれ)

3月20日

小友町の菊池勗さん100歳

菊池さんの長寿のお祝いが自宅で開かれ、家族らが祝福しました。菊池さんは、「ひ孫たちの成長が楽しみ。一緒にご飯を食べると明るい気持ちになる」と語り、微笑みました。大正12年に小友町に生まれ、15歳で上京。飛行機の製造会社に6年ほど務め戦争へ。帰郷後、故・トヨさんと結婚し、農業をしながら3人の子を育て上げました。現在は好き嫌がなく何でも食べ、自宅で元気に過ごしています。

S L 銀河特別運転

3月21日

S L 銀河が遠野の夜空彩る

今シーズンで運行を終えるS L 銀河の特別運転が実施されました。釜石駅～花巻駅間を運行。ライトアップされたためがね橋で「銀河鉄道の夜」をイメージした夜間運行が実現しました。小学生の高橋龍聖くん(北上市)は、「釜石駅から1日追いかけてきた。夜のS Lは迫力があってすごかった」と目を輝かせました。S L 銀河は6月11日(日)まで土日祝日を中心に、上下線26本が釜石線を運行する予定です。

2月22日 「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」発表会

地域団体・企業との探究成果披露

遠野高1、2年生が市内団体・企業などと一緒に1年間探究した成果を披露する発表会は市民センターで開かれました。ジンギスカンのタレや空き家など12のテーマ別に発表。中学生に数学を楽しんでもらおうと「数学フェスティバル」を開催した教育ゼミ班・佐々木緑登さん(現3年)は、「探究の課題設定が大事。しっかり検討することでクリティカルな活動になった」と総括しました。



身振り手振りを交えて発表する遠野高生徒

3月3日 遠野緑峰高「校内プロジェクト発表会」

農業・商業発展へ学び豊かに

発表会は農商連携の充実や学びの意欲を高めようと市民センターで開かれました。遠野緑峰高生産技術科と情報処理科の生徒9グループが「伝統野菜の活用」「郷土料理「かざりめし」の復活」「遠野を紹介するアプリ開発」などの研究を発表。伝統野菜とエゴマと赤りんごと題し発表した藤田真耶さん(現3年)は、「研究は地域との連携が不可欠。地域と共に学び、共に歩みたい」と展望を語りました。



1年間の研究活動を発表する遠野緑峰高生徒

3月12日 「オープンディスカッション」

とぴあに遊具整備へ市民と検討

市は、とぴあ1階の遊休スペースに地域産材を使った大型木製遊具などを整備するため、市民の声を聞くオープンディスカッションを開催しました。市民ら約40人が参加。整備案の説明を受けた参加者は、「ジャングルジム」「すべり台」「トランポリン」「お絵描きできる壁」など意見を出し合いました。市は今後、整備計画を作成し、本年度中の整備着手を目指しています。



遊具整備を目指すとぴあ1階で意見を出し合った参加者ら

3月16日 みやもり荘で長寿をお祝い(3月26日生まれ)

達曾部の佐藤カツさん100歳

佐藤さんの100歳を祝う会がみやもり荘で開かれ、施設職員や利用者らが長寿を祝いました。お祝いを受け佐藤さんは、「ありがとうございます。うれしいです」と笑顔で語りました。大正12年に宮守村(宮守町達曾部)に生まれ、27歳で故・五郎さんと結婚。夫とりんご農家を営みながら、3人の子を育てあげました。現在は同施設で生活し、毎週、家族と電話することを楽しみに過ごしています。



100歳を迎えたカツさん